

京都の福祉

536

2014.3 March

●「病児・障がい児の地域生活を支える会
てくてく」の取組み

地域で一緒に育ち合う

●広がるサロン活動の可能性と専門職の
役割とは？

たかがサロン？されどサロン！

●夢中！熱中！ふくしびと



てくてく代表 戒崎さん

もえくさ

あの3・11から三年。全国の人々が「絆」を改めて大切に紡ぎ直してきた。その中で、多くのボランティアが熱い思いで活動している▼ボランティアの語源には諸説あるが、そのうちの一つにラテン語の「バルカン（火山）」がある。「目の前のこの人を何とか助けたい」という熱い思いがマグマの様に噴き出すことに端を発しているらしい▼私たちの福祉活動の原点はそこにあり、ホームヘルパー制度しかり、手話通訳制度しかり、「何とかしたい」と思っ

てはじめた活動が国の制度となり、「当たり前」の暮らしを実現させている▼今国において検討されている「介護保険の見直し」の中で、要支援の方への訪問介護、通所介護を予防給付からはずし、地域支援事業に移行させようとしている。最低基準も利用料も全て市町村任せになると今、「当たり前」の暮らしをしている方が、地域で「何とかしないとけない方」になってしまふ恐れはないでしょうか▼どんな制度にも必ず、制度の網の目から漏れる方がいる。制度の網の目から漏れた「この人を何とか助けたい」という熱い思いは、もっと細やかな制度の網の目を作って、「当たり前の暮らし」を実現しようとするものである。私たちの福祉活動が新しい制度を創り出す大きな力となることを願ってやまない。

(YI)



サンタクロースと

でも、『てくてく』に参加し、さまざまな家族の姿を見ながら、同じ「障がい児」というくくりの中にも違いがあること、それぞれの大変さがあることに参加者は気づき始めます。「視野を広げること、自分が置かれている状況を見つめ直し、気持ちや楽になれる。子どもも成長や新たな一面と我崎さん。」

ケーションツール。言葉で指示してできないことも、音楽に合わせてならできる場合があります。気持ちを表現・発散するのにも音楽は最適。一緒に歌ったり踊ったり、音楽を通して笑顔が溢れ、参加者が一体となるんです。病児や障がい児だけに焦点を当てるとは、親や兄弟姉妹にも目を向け、日頃の不安や悩み、ストレスをここで少しでも癒してほしいと願う『てくてく』ならではの試みです。

一歩踏み出す
勇気さえあれば
親子の視野が広がり
心が軽くなると伝えたい

『てくてく』に参加するまで、「家と病院の往復だった」という家族も少なくありません。「お母さんが1人で、あるいは家族だけで病児や障がい児と向き合っていると、誰でも自分だけが大変と感じてしまいがち。肢体不自由児の息子を育てていた、かつての私もそうです。」と我崎さんは話します。



「病児・障がい児の地域生活を支える会てくてく」の取り組み

地域で一緒に育ち合おう

小 さな子どもがお母さんと手をつないで、ゆっくり、てくてく歩くほほえましい姿。病児や障がい(注)があっても、そんなふうに親子が手を取り合いゆっくり前へ進んでいけたら…そんな願いから、京都府木津川市でボランティアグループ『てくてく』は誕生しました。代表を務める我崎綾子さんは、自ら健常児と障がい児を育てた経験をもつお母さんです。我崎さんの優しいまなざしと声かけにより、『てくてく』は病児や障がいのある子ども達(以下…病児・障がい児)とその家族が集い、ほっとできる場所になっています。同時に、子どもと親の気持ちに寄り添い、確実に成長の道を歩める場所でもあります。そんなサポートを続けている『てくてく』の実践をご紹介します。

病児や障がいがある子の
家族がつながる
地域の中で
生きることを大切に

『てくてく』が活動を始めたのは平成18年のこと。我崎さんのお子さんが通っていた療育施設の職員(現在は、会スタッフの北沢喜晴さん)に「障がいのある子が、地域で生活していくにはどうしたらいいか」と相談したことがきっかけでした。当時、京都府南部には病児・障がい児を支援する団体はなく、奈良で行われ

ていた障がい児支援団体にならって設立を決意しました。現在、『てくてくひろば』と医療的ケアが必要な子どもたちの「みにてくひろば」をそれぞれ月1回開催しています。

『てくてく』で大事にしているのは、病児や障がいの有無・種別による区別をあえて行っていないこと。病児・障がい児はもちろん、その兄弟姉妹、友達も参加できます。「私たちが大切にしているのは、地域とのつながりです。障がいのある人もない人も、地域にはいろんな人が暮らしています。」



楽しいクリスマス会

北沢さんは「最初はお化粧や洋服まで構っていられたかったお母さんが、回を重ねるごとに気持ちに余裕が生まれるのでしよう、お洒落を楽しむようになったり、お母さん同士の会話が弾むようになりました。そんな変化が嬉しい」と続けます。

活動の中では「パパママひろば」という保護者の交流会も行っており、就学のこと、発達の不安など、さまざまな悩みが出されます。病児や障がい児を育てる親同士だからこそ、共感したり率直に話せる悩みも多く、この交流会で背中を押してもらい、前へ進める家族も多いそうです。

活動の目的は、子どもを笑顔にすることだけじゃない。親の笑顔を見て子どもが笑顔になる。『てくてく』では、そんな視点を大切にしています。

我崎さんは自身の経験を通じて、「病児・障がい児の子育てに関する情報や選択肢は、健常児に比べてあまりにも少ない。病児・障がい児は人数が少なくからこそ、制度施策の充実には行政や専門機関のバックアップが必要」と話します。

病児・障がい児が
当たり前前に暮らせる
地域社会の実現を
目指して

設立当初4家族から始めた活動も、今では90家族が登録

病児・障がい児とその家族が、地域の中で孤立せずに一緒に生きられること、地域で当たり前前に育つこと、病児・障がい児を育てる家族のしんどさに気づける人が広がること。こうした『てくてく』の願いは、孤立を見逃さない地域づくりや生きづらさを抱えて

障がいのある子と家族だけで集っていても、それは特殊な環境。いろんな立場の人が同じ時間を過ごすことで、お互いを理解する一歩になります。やがて社会の中で生きていく、その前段階として『てくてく』という小さいコミュニケーションを活用してほしい」と我崎さんは話します。

子どもも大人も
楽しめる「音楽あそび」
「音楽」で人と人が
つながる喜びを伝える！

『てくてく』では「音楽あそび」を取り入れています。これを担当するのは北沢喜晴さん(通称:よつばさん)です。取材に訪れた昨年12月は、クリスマス会の開催日。よつばさんがギターを抱えて登場すると、楽しい音楽あそびの始まりを予感するのでしよう。子どもたちは期待の込もった表情に、臨床発達心理士やミュージックケアワーカー等の資格を持つ北沢さんは「大人にとっても子どもにとっても、音楽は心のリラクゼーションであると同時に、大切なコミュニ

「病児・障がい児の地域生活を支える会てくてく」
<http://icare-teketeku.com/>
注 本会では、通常「障がい」表記していますが、「こはこはてくてく」で使用している「障がい」という表現を使っています。



広がるサロン活動の可能性と専門職の役割とは？

たかがサロン？ されど

「サロン！」



今、「孤立」の問題が大きな地域課題になっています。かつて地域にあった地縁や住民同士のつながりが薄れていく中で、地域で誰ともつながりを持っていないまま静かに孤立してしまうケースも少なくありません。福祉の専門職にとって「孤立を防ぐ」は大きなテーマと言えます。そんな暗い流れを打ち消すかのよう、住民同士の結びなおしを目指して元気に活動しているのが「サロン活動」です。ますます広がりを見せているサロン活動の可能性と、それを支えるための福祉専門職の役割とは何でしょうか？

広がる サロン活動の可能性

「サロン活動をご存知ですか？」と尋ねると「サロン」とは、誰もが気軽に立ち寄れて仲間づくりの活動をすすめる、地域の皆さんの交流の場のことを指しており、「ふれあい・いきいきサロン」と呼ばれることもあります。現在では京都府でも約1700箇所あると言われていたサロンですが、今なおその数は増加傾向にあり、地域の中で行われる住民活動の一つのメジャーな取組みとなってきています。

誰もが、気楽に通え、顔見知りの知人とおしゃべりしたり、思い思いの時間を過ごしてまた自宅へ帰っていく。誰かと話ができる喜びや誰かとつなが

がっているという安心感。時には誰かを励ましたり、励まされたり。たとえたった月1回の場であったとしても、そんな人間らしい「温かさ」を感じたりとゆっくりと感じられるサロンは、自分の「居場所」としての安心感が漂う場所でもあります。

しかし一言に「サロン」と言っても、その形態は様々です。参加人数や対象者、時間帯や頻度、会場も様々で、最近では対象者を男性限定にした「男性サロン」や時間帯を朝のゴミ出しの時間に合わせた「モーニングサロン」など新しい切り口のサロンもあります。それからサロンの内容についても、毎回様々なプログラムを企画して実施している所もあれば、特にプログラムは実

施せず「みなさんご自由にどうぞ」という所もあります。また、買い物に行く足に苦労している山合いの住民のために月1回の買い物ツアーを普段のサロン活動の中に組み込むなど、「居場所」としてのサロンからもう一歩踏み出したサロンもあります。

サロンの強みは「場」の力

このように、サロン活動とは、「サロン」という既存の枠に当てはめた活動を創っていくことではなく、その地域に住む住民の「想い」によって形作られ、また、支えられているものであると言えます。住民の方々が日々の生活の中で得た気付きや想いによって、サロンはより地域生活に根ざした形へと変化し、成長していくものなのです。

また、サロンの形は違っても、サロンには住民の方々がお互いに見せ合う「笑顔」や「会話」によって生まれる「温かさ」が共通してあるように感じます。サロン活動の強みとは、そういった温かさが生

まれる具体的な「場」があるという事と言えるでしょう。

専門職から見たサロン



一方で、福祉施設や地域包括支援センター、社会福祉協議会などで働く福祉の専門職にとっても、実は「サロン」は注目の存在。地域の中で高齢者が増えていく中で、高齢者の閉じこもり防止、介護予防・健康促進、独居高齢者の見守り、認知症などの早期発見、生きがいづくり等、専門職の視点が

から見てサロンの機能に期待する部分は沢山あります。また最近ではサロンという場を活用して、相談員による出張相談会の実施、認知症予防教室の開催、あるいは保健師による健康チェックを行うなどの連携もよく見られるようになりました。

だからこそ、どうしたらもっと地元のサロンと連携できるだろうかとか、またサロン活動が無い地域ではどこに誰に働きかければサロンが立ち上がるのだろうか、頭を悩ま

せている専門職も少なくないと聞きます。

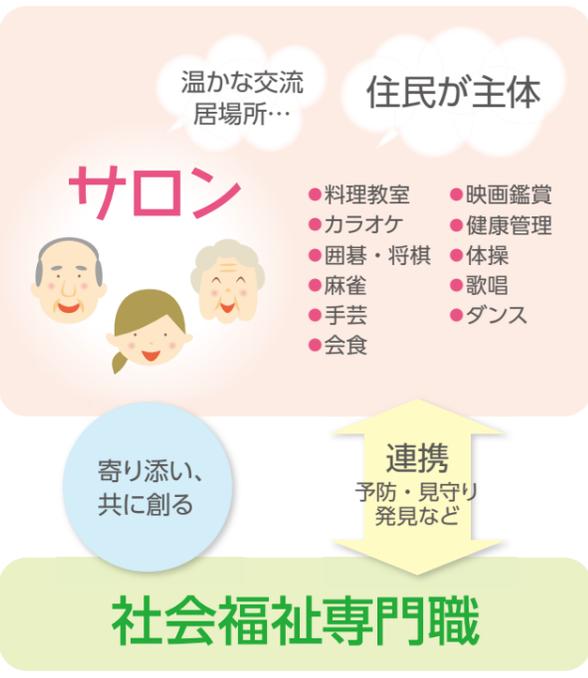
サロン活動を支える専門職の役割とは？

そのような専門職を支援するため、本会では昨年12月に「サロン活動の可能性と専門職の役割を考える」というセミナーを実施するなど、スキルアップを目指しています。同セミナーの講師を務めた大谷大学の山下憲昭教授が専門職の役割について「地域の活動者に寄り添い、応援すること」と言うように、サロン活動の主体はあくまでも住民の方々であり、専門職は活動者を支えたり、活動者が生まれてくるように地域の機運を高めたりすることが大切な役割と言えます。

住民と「一緒に」創っていく姿勢



専門職が先頭を切ってサロンの役割・機能へ期待を抱くことは悪いことではありませんが、それが住民との足並みが揃っていないものだったり、達成したい目標の為に「サロ



ひとりで悩まないで！

知っていますか？ DVのこと

DVとは、夫婦や恋人などの、親しい男女の間で起こる暴力のことをいいます。

京都府では、被害者が安心して相談できる環境づくりと、DVを許さない社会づくりを進めています。

京都府府民生活部男女共同参画課
TEL 075-414-4291
<http://www.pref.kyoto.jp/josei/dv13.html>



ミーティングの様子

「明けましておめでとうございませう！」利用者から丁寧な声が響きます。利用者には、仕事を就いて10回目の新年を迎えることができました。利用者の元気な笑顔とあいさつは一番のパワーの源です。自身の怪我から支援の大切さを知り、福祉に興味を持った私は大学では福祉を専攻、障がい者施設で働くことを決めました。

支援で大切にしていることは、「その人の想いを聴く」ことです。利用者の声に耳を傾ける。じつと待つ、じっくり聴く、言葉数はほどほどに、心をかけています。言葉で伝えることが難しい方は、身ぶり・手ぶりで教えてくれます。「花見がしたいなあ」と、ある利用者がつぶやいたことがありました。施設での余暇企画とも考えましたが、先輩職員の見聞も参考に、その方が最後まで自分の力でやり遂げられる方法として、幹事として少人数でお花見会を開くことを提案しました。日程や内容の検討、チラシの制作、当日の買い出しなど、その方が思い描いているお花見に近付けるようお手伝いさせていただきました。当日は満開の桜の木の下で楽しむ参加者に、幹事の方も満足そうな表情を浮かべ

大成功に終わることができました。休憩時間の過ごし方や作業など、利用者と活動を作り出す試みが一番楽しいと感じます。利用者一人一人の気持ちを聴く度に、十人十色の想いがあることを感じるとともに個別に支援を組み立ててゆくことの重要性を感じます。今後も利用者の想いを中心に、気持ちを交わし合うお付き合いや支援者間での情報共有を大切に、日々の支援に活かしていきたいと思っています。



わくわくまつりにて

夢中! 熱中!

だから続けたい この仕事

ふくしびと

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。

利用者の笑顔とあいさつがパワーの源

十人十色の想いを大切に

坂尾 絵美里さん

●さかお えみり
 施設名：社会福祉法人 山城福祉会 宇治川福祉の園
 事業所住所：〒610-0041 宇治市横島町石橋13-6
 HP/URL：http://www12.plala.or.jp/yamashiro-fk/ujigawahukusinosono.html
 TEL.0774-25-7091 FAX.0774-25-7093
 職種：生活支援員
 経験年数：福祉職通算9年9カ月
 ▶好きな言葉：想いを聴く
 ▶夢中になっている事：季節が感じられる場所に外出すること



笠置町社協 かさりん

プロフィール

誕生日：2012年11月生まれ
 好きなこと：楽しく話すること
 住所：笠置町



自然いっぱいの笠置町で

笠置町は、観光の町として自然を楽しむためにたくさんの方が訪れます。「かさりん」も笠置町の自然をイメージしました。顔は笠置の花ソメイヨシノ、身体は笠置山、足は木津川を表現しています。そして、両手で町民の方々と共に手をつなぎ支えあい、いつも笑顔で一歩ずつ歩んでいきたいという思いを込めて誕生しました。デザインは町民の方が考案され、名前は府民の方からの応募で決定しました。平成24年11月の社協法人化30周年記念大会で初めて皆さんにお目見えしました。まだ1歳です。町民の方からも「かわいい」と好評いただいています。職員のユニフォームや公用車のステッカー、封筒などと共に毎日町内を走り回っています。



▲かさりんデビュー

桜の花を咲かせます

笠置町は「桜百選」にも選ばれるほど桜の名所として有名でしたが、周囲の雑木の生長と共に景色も変わって行きました。ここ数年、苗木を植え昔の景観を取り戻す事業も行われています。「かさりん」も最初は一輪の花ですが、地域の方に寄り添った活動を通して満開の花を咲かせ「福祉の桜百選」を目指したいと思っています。



▲かさりん活躍の場

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度
 「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
 安価な傷害見舞金補償制度など
 必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、
 京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合保険代理店 **SRM** 株式会社 エスアールエム

専用TEL **075-822-8613**

福祉の保険ホームページ **www.srm-net.co.jp/smile/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

案内 「きょうとハート基金」をご存知ですか？

災害時に福祉施設を支え合うために

「きょうとハート基金」は、福祉施設や企業の経費(光熱水費など)をクレジットカードで支払うことで、利用額に応じたポイントを基金として積み立て、福祉施設に助成するという仕組みです。助成は、災害時の施設復旧や防災・減災などの取り組みなどが対象となります。災害時に公的財源では賅えない復旧経費を、施設間で相互に支え合うために、また想定外の事象への備えとしても、多くの福祉施設や企業に導入を呼びかけています。

ぜひこの機会にクレジットカードでの支払いの変更をご検討ください。

詳しくは本会までお問い合わせいただくか、本会ホームページ(きょうと福祉パートナー事業・きょうとハート基金 <http://www.kyoshakyo.or.jp/f-partner/fund/>)をご覧ください。

TEL.075-252-6291

案内 安心して暮らせる地域づくりのパートナー 京都府社協では賛助会員を募集しています！

京都府社会福祉協議会は社会福祉法に基づき設立された社会福祉法人です。京都府の地域福祉を推進する民間団体として、「福祉で地域づくり」を合言葉に、住み慣れた地域でだれもが安心して生活できる、そんなまちづくりをめざしています。ぜひ、「賛助会員」として、本会の活動をご支援ください。

重点事業 ～市町村社協、民生児童委員、社会福祉施設等と連携・協働して推進しています～

- 声かけ・訪問活動や居場所づくりの推進事業、見守り活動団体のネットワークづくり
- 低所得者、障害者や高齢者の世帯を対象とした生活福祉資金貸付事業
- 判断能力に不安のある方のお手伝いをする福祉サービス利用援助事業
- 施設等の福祉サービスに従事する人材の確保・定着・育成 など

会費額(年額)

- 賛助会員 個人 1口5,000円、法人 1口10,000円 で希望口数

賛助会員の特典

- 京都府社会福祉協議会発行の機関紙「京都の福祉」(年8回発行)をお送りします。府内の福祉の最新情報がお手元に届きます。
- 全社協出版部発行の福祉図書が割引価格で購入できます。
- 社会福祉大会など本会主催の講演会等のご案内を差し上げます。

賛助会員についてのお問合せ・お申込先

京都府社会福祉協議会 総務部総務課
〒604-0874 京都府京都市中京区竹屋町通烏丸東入ル清水町375

TEL.075-252-6291 FAX.075-252-6310

HP http://www.kyoshakyo.or.jp/introduction/introduction_4/post-2.html

案内 施設の新築や増改築を考慮せられる社会福祉法人の皆さまへ

府社協では低利による融資を行っています

本会では、京都府内(京都市を除く)の社会福祉法人に対し、「施設整備等融資金貸付事業」を行っています。貸付対象事業には次のようなものがあります。

- 社会福祉施設の新設や増築費用
- 社会福祉施設の修繕や改築費用
- 固定設備や屋外設備、器具等備品の整備費用
- 施設の新設等を行うための土地取得費用
- (独)福祉医療機構の貸付金や地方公共団体の補助金が交付されるまでのつなぎ資金

貸付限度額は50,000,000円(特養のみ100,000,000円)、償還期間は10年以内で、貸付利率は、(独)福祉医療機構の貸付利率を適用しています。なお、この融資金は(独)福祉医療機構と併せて借入することが可能です。貸付事例として、保育園舎の耐震化に向けた改築やグループホームの増築、設備の老朽化に伴う取替工事等への貸付が

あり、これまでに60以上の社会福祉施設にご利用いただいています。

詳しくは、本会ホームページ(市町村社協・福祉事業者の方へ)をご覧ください。本会までお気軽にご相談ください。

TEL.075-252-6291

案内 次世代の担い手育成事業「合同発表会」のご案内

子どもたちが自ら福祉の仕事体験を發表します！

子どもたちは、学校の授業を通して福祉の仕事の必要性や大切さを理解しようとしています。合同発表会では、今年度実践した学校の小・中学生が自ら発表しますので、ご来場ください。

日時 平成26年3月8日(日)
13:00～16:30

場所 ハートピア京都3F 大会議室
お問い合わせ

京都府福祉人材・研修センター
TEL.075-252-6298

相談 何でも経営相談

気になること、困ったこと、お気軽にお電話ください

京都府経営協では、福祉施設の運営や経営面をサポートするため、経営指導事業を実施しております。

- 社会福祉法人の新会計基準への移行はどう進めたらよいか…
- 職員の休暇や休職・復帰の扱いで悩んでいる
- 法改正を伴う事項、就業規則をどう見なおせば？
- 利用者(家族)とのトラブル
- 賃金体系を見直したい など

その他何でもお気軽に下記までご相談ください。

曜日 毎週月～金(祝日及び年末・年始除く)

時間 午前10時～午後4時

TEL・FAX.075-252-6301

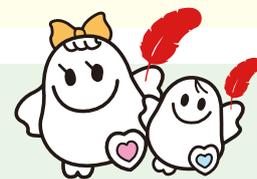
- 「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せください。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

- 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<http://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。